

⑦田園調布駅から田園調布古墳群を訪れる

2019.6.26 秋山

田園調布の誕生

大正初期の田園調布は、台地の上に広大な畑が広がっていました。そのころ東京の中心部は近代化の影響から人口が2倍に急増し、都心から郊外に快適な街を建設しようという計画が立ち上がりました。田園調布を開発したのは、渋沢秀雄です。秀雄は明治から大正にかけて活躍した渋沢栄一の息子です。この秀雄にアドバイスをしたのが阪急電鉄の創始者小林一三です。

街の区画設計はフランスのパリを手本にして開発されました。田園調布駅舎を凱旋門に見立てて、そこを中心として放射状に伸びる街路を敷いたのです。しかし小林一三は、この設計図を見て宅地の形が変形していて分譲しにくいと言いました。確かに道を基盤の目のように真っすぐにすれば設計や造成も容易になりますが、渋沢秀雄は放射状の街路は、そのまま変更しませんでした。



旧田園調布駅



渋沢栄一



そば屋兵隊家

分譲当初の家

大正12年の分譲当初の家は、中堅サラリーマン向けでした。家の規模は2LDK平屋建てでした。現在でも分譲当初の家が残っています。屋根瓦の和風建築、窓や玄関は洋風というおしゃれなデザインで築96年になります。価格は現在の価格にすると3,000万円くらいで、中堅サラリーマン向けに販売されたのです。

販売直後に関東大地震があり都心部で被害に遭われた人びとが、郊外に住まいを求めました。軍人たちは関東大地震後、緊急事態に対応できる地盤の固い高台の田園調布に次々に自宅を構えました。その軍人の一人に、陸軍の近衛連隊の軍人だった望月正晴(1982~1945)さんがいました。望月さんは退役後、そば屋「兵隊家」を開業しました。また田園調布は海軍技術研究所や陸軍駒沢練兵場に行くのに、電車の便がよいためエリート軍人に人気がありました。その後、歴代の総理大臣、映画スター、歌手、野球選手など各界のセレブが移り住み人気が高まりました。



分譲地



分譲当初の家



現在の街並み

町内会が独自に制定した「田園調布憲章」

田園調布は、大正時代後半に渋沢栄一翁の提唱で、当時ようやく欧米に表れ始め「住宅と庭園の街作り」田園都市構想を取り入れ、多摩川の東側にあるなだらかな丘陵地帯に、新しく建設されたものです。以来、住民はこの建設の精神と理想に沿い、自主的に平和で公園的な街作りに励んできました。いまでは駅前のいちよう並木や各所に見られる桜は立派に成長し、家々の植木や生け垣も四季を通して、私たちの目を楽しませ、暖かく迎えてくれる田園都市に成長しました。

住民は、今日まで築かれたわが街の優れた伝統と文化を受け継ぎ、これからの情勢と変化に、賢明に対処しながら、常に緑と太陽に満ち、平和と安らぎに包まれ文化の香り漂う、よりよいまちづくりを目指ことを念願し、ここに住民の総意に基づく憲章を定めたものです。

1. この由緒ある田園調布をわが街として愛し、大切にしましょう。
2. 創設者渋沢翁の掲げた街づくりの精神と理想を守り、自治協同の伝統を受け継ぎましょう
3. 私たちの家や庭園、垣根、塀などがこの公園的な街を構成していることを考え、新築や改造に際しては、これに相応しいものとし、常に緑化と美化に努めること

以下省略

この他に環境保全についての申し合わせに基づく「田園調布地区の地区計画」があります。

なお、この大田区田園調布は、第1種低層住居専用地域と第2種風致地区に指定されていて、日本有数の高級住宅地になっています。

高級住宅街の苦悩～都市部の住宅問題の象徴

これまで田園調布に家を持つというのは、誰もが憧れ成功の証でした。ところがその田園調布の高級住宅街に空き家が増え、将来ゴースト化するのではないかと危惧されています。

確かに田園調布駅から放射状に伸びる田園調布3丁目を歩くと、目につくのは雑草が茂らないように、シートに覆われた広い空き地です。田園調布駅の東側の商店街にある不動産屋の広告を見ると、一区画6億とか4億などで、購入できる人は限られています。このため売れずに空き地になっているのです。高級住宅地の苦悩です。

この地域は第一種低層住宅地域で、住宅の用途以外は非常に条件が厳しく、高さ制限があります。土地を小規模に分割して販売できません。また第2種風致地区に指定されています。



高級住宅



売地のチラシ



更地

参考資料

郷土誌 田園調布

田園調布の計画の変更について

田園調布会

福島富士子